

記念講演

カリコボーズの村づくり

宮崎県西米良村長 黒木 定藏 氏



社会教育は人づくり、地域づくりも人づくりである。村長として、平成10年より4期目。本日は、村づくりで取り組んだことを紹介する。

西米良村は九州山地のへそ、96%が山。高齢化率が顕著で若者は7%しかいない。営々とした営みを次の代につなぐ使命を負っている。

「カリコボーズ」 森に住む少しいたずらな森の精霊。心の美しい人には見えるそうだが、私は、残念ながら見たことがない。

「須らく天下の魁と為るべし」 (何事も先駆けとなる) 菊池氏の教え、村の合言葉。私たちは、南北朝時代に公家とともに落ちてきた菊池氏の流れを汲む一族である。

「神楽」 600年の歴史を誇り、百濟様式を色濃く残す。村には廃仏毀釈運動により仏教がなく、全員が神道である。

「特産品」 米良糸巻大根、伊勢イモ、柚子、西米良サーモン、ホオズキなど。

「木炭の生産」 昭和30年代は日本一。現在は生業としての生産はゼロである。

「自立自走の村づくり」 ゆた〜と温泉、(株)米良の庄の開業などに取り組む。

桃源郷づくり 幸せ感を見出す取組。コンセプトは心も自然も豊かな村づくり。遠くにあるものに価値を見出そうとする人間の心理を利用した。

「地域の宝探し」 まず始めたこと。いいものを見出す力が大切だが、違う目、冷静な目をもったプロに素材を磨いてもらうことで、マイナスをプラスに変えることもできる。

「西米良型ワーキングホリデー制度」 都市と山村のニーズを満たす交流システム。村は滞在者に野菜収穫等をしてもらい、お金を払う。滞在者はそのお金を宿泊費や土産代として村に落とす仕組み。長期滞在を可能にし、労働力不足のカー等にも役立っている。

「8つの庄建設プロジェクト」 8集落毎にテーマを定め、「湖遊びの庄」や「語り部の庄」づくり等を同時進行で実施している。

「子育て・若者支援」 若者定住住宅の整備やマイホーム建築祝金、出産祝金、妊婦の検診費、中学校までの医療費無料化、高校生への助成金、出会いの場の設定等の支援をしている。

「米良のあさよむ村民運動」 移動図書館車を活用した読書活動を村を挙げて展開中である。

小川作小屋村づくり 平成の桃源郷。観光客のリピーター率向上をめざし、飽きられず、心に響き、感動を共有できる新しい村づくりを始めた。

「作小屋」 居宅から離れた田畑山林を管理する仮住居である。(昔から残る独自の生活文化)

「新たな山村集落モデル」 小川地区には城址があり、桃源郷を想わせる。(高齢化率は71%)

「コンセプト」 「共同作業の場」「移住の足がかり」。元気な地区づくり、限界集落からの脱却に挑戦した。

「意識づくり・組織づくり」 2年費やす。県外視察や専門家を交えて料理研究や試食会、茅刈り・運搬作業を繰り返した。

「仕掛け」 「茅葺小屋」「おがわ四季御膳」「月の神楽」「山菜まつり」。作小屋は平成21年にグランドオープンとなった。

「高齢化率5%減少」 若者のUターン・Iターンが進む。売上約2,000万円、地元へ1,600万円を還元できた。

「ふるさとの魅力を再認識」 村を誇りに思う気持ちへと変化してきた。

「平成の江戸見学事業」 功労者である75歳以上の村民を対象に、村有林売却益で実施した。

めざすは 身丈に合った取組を総参加で。継続的な仕掛けを。そして、幸せ度の高い村づくりをしていく。

最大の宝は人、最大の武器も人